

会派視察・研修報告書

会派名 公 明 党

代表者名 寺島 芳枝

1 日 に ち	令和6年10月9日(水)、10日(木)
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	第19回全国市議会議長会研究フォーラム in 盛岡 会場: トーサイクラシックホール岩手 主催: 全国市議会議長会
3 参 加 者	寺島 芳枝 片山 竜美 工藤将和
4 調査・研修の テーマ	「主権者教育の新たな展開」
5 主な内容	基調講演「人口減少社会における地域の未来図」菅義偉氏 パネルディスカッション「地方議会の課題と主権者教育」 課題討議「主権者教育の取組報告」
6 所感、提言事項、課題等	【寺島芳枝】 <パネルディスカッション> コーディネーター ・ 教育基本法(昭和22年)第8条(政治教育)を謳う一方で、現実の具体的な政治的事象も取り扱うようになると、教師の個人的な見解や主義主張が入り込む恐れがあり、慎重に取り扱わなければならない。 ・ 模擬など、実践的な取組みがされるようになる(リアル議員との対話)。 ・ 高校時代の主権者教育は国政を受けたものが多い。地方議会の教育が少ない。 土山希美枝氏 ・ 誰の為の主権者教育か。「議会が主権者教育をやる」ことに対する疑問。「なり手が増えて欲しい」それは議会側。 ・ 議会にとっては、「若き市民の参加」「将来市民の議会参加」 ・ 議会の場としての議会の特徴を考える。同じ市民として、大人でない市民と語り合う場としての意味はある。 越智大貴氏(総務省の教育アドバイザー) ・ 学校と社会を繋ぐ実践的な場作りを展開。リアルな政治とキャリア教育が結びついていないという問題意識から。 ・ 「なぜ選挙に行かないか」政治に関心がないからではない。自分の力で社会を変えられると思っていない。どうせ変わらないと思っている。また、家族と政治や選挙の話はしない。 ・ 今の教育は制度の解説が主。先生が実践する難しさ、生徒会のなり手不足がある。こども・若者と一緒に取り組むことが大切。 ・ カギは「自分達の行動で、国や社会を変えられる実感を持つこと」 ・ 議員との交流は、子ども達の政治意識の醸成に影響を及ぼす。機会をつくることは重要である。 渡辺嘉久氏(読売新聞東京本社新聞記者／総務省主権者教育アドバイザー)

一)

- ・ 18歳を政治で取材することはない。議員は町に出よ。
- ・ 高校で授業をした。生徒が選挙に行かない理由—知らない自分が選挙をして間違った人を選んだらと考えると行けない。→選挙は政党や人を選ぶのではなく、自分の希望を叶えてくれる人を選んでごらん。→情報を与えることで、生徒がメリット、デメリットを考え、その上で投票するという方向へ。

遠藤盛岡市議会議長

- ・ H29年から、高校生議会の開催を続けている。
- ・ 高校生と議員が市政の課題について意見交換して提言とする。

投票に行くようにするために、政治は変えられるとの体験をすることが大事。将来投票に行くようにするために、意志決定の場を体験してもらうことが大事。地域で世代を超えたワークショップを開くと、他世代との交流で刺激を受け、優先順位を考える機会となる。目に見える形でちゃんと揉める経験が大切である。それぞれの主張の心に残ったことを書き留めた。

<課題討議>

- ・ 2日目の市町の取組みの事例紹介について、山鹿市議会の絵本を活用しての取組みは興味深かった。

多治見市議会が行っている多治見工業高校へのおとどけセミナーにおいても、制度の説明とともに、課題に対する声を聴きながら対話をする形式は理にかなっていると感じた。その後の議会傍聴へと繋がっていることも良い。今年度の開催での意見を楽しみにしようと思う。また、議員個人のアピールとならないような配慮も必要であると改めて感じた。

【片山竜美】

<パネルディスカッション>

- ・ 土山法政大学教授の「議会で主権者教育は行う必要はない」には、共感できた。教員でもない議員が「教える」ことはしなくてもよいと思う。議員として経験したことや感じたことを、まずは話すことが大切であると思う。
- ・ 遠藤盛岡市議会議長の報告にあった、議会で実践している高校生議会では、定例会の議案審査の流れを疑似体験する等の取組を行っており、とても素晴らしいと思った。しかし、そこまで議会が行うものかどうかは疑問である。
- ・ NPO法人の越智代表理事が、要請を受けて、学校の中で「主権者教育」を行っている。こういった団体を活用することで、学校の負担も軽減できるのではないかと感じた。
- ・ 全体を通して、議会が行う「主権者教育」は、多治見市議会が行っている「おとどけセミナー」等で十分であると感じた。また、中学生に向けての取組の発表がなかったのは残念である。高校生よりも中学生の方が重要ではないかと考えている。

	<課題討議> ・ 伊那市、山鹿市、四日市市から、実践事例が紹介された。いずれも、議会から積極的に学校や教育委員会に働きかけて実現しており、とても素晴らしい取組であった。 ・ 伊那市では、意見交換に参加した高校生の意見が採用され、実際に請願や要望を提出し、実現に向けて動き出している。 ・ 四日市市においては、外国人留学生との交流は、目からうろこが落ちるような刺激や学びがあったそうで、主権者ではないが、こういった人から意見を聴くことも、大切であると感じた。 ・ 山鹿市では、絵本などを活用して、45 分の授業の時間を工夫して、小学生と交流をしていた。子どもはどうしても強い意見に流されてしまうこともあるが、そういった体験も大切であると結論されていた。授業づくりの大変さは知っているので、大変挑戦的な取組であると感じた。 【工藤将和】 現在、全国的に議員のなり手が減っており、定数に対して無投票の地域も増えてきています。この問題は、喫緊の課題で民主主義の根幹が揺らぎ始めています。 主権者教育のパネルディスカッションの中で、専門家の先生が「議員が高校生に講義を実施して、主権者教育というのはやめましょう」とのご意見があり、自身もその意見に納得しました。 主権者教育の根本は、あくまでも学校の先生です。その補助として議員が関わっていく。 議員の関わり方として、3つの提案をします。 1、議員と学生との関わり方に対して、ガイドラインを設けること。 2、政党色、個人のアピールを避けること。 人によって関わり方の差がないよう、マニュアルが必要と考えます。 3、誰のための交流かを根本に置き、学生に対して関わること(将来の主権者として)。 大切なのは、公的な仕事だからこそ、公平に関わり続けていくことで、議員の仕事や議会の役割なども理解してもらうことが大切だと考えます。 今回の2日間で、主権者教育について、改めて大切さを再認識することができました。 自身もこの思いで今後活動して参ります。
--	--

7 写真等

※視察の場合は必須、研修の場合は任意



※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。